

令和5年4月

横須賀市 スマートシティ推進方針

～新たな技術で暮らしやすさを実感できるまちに～

横須賀市

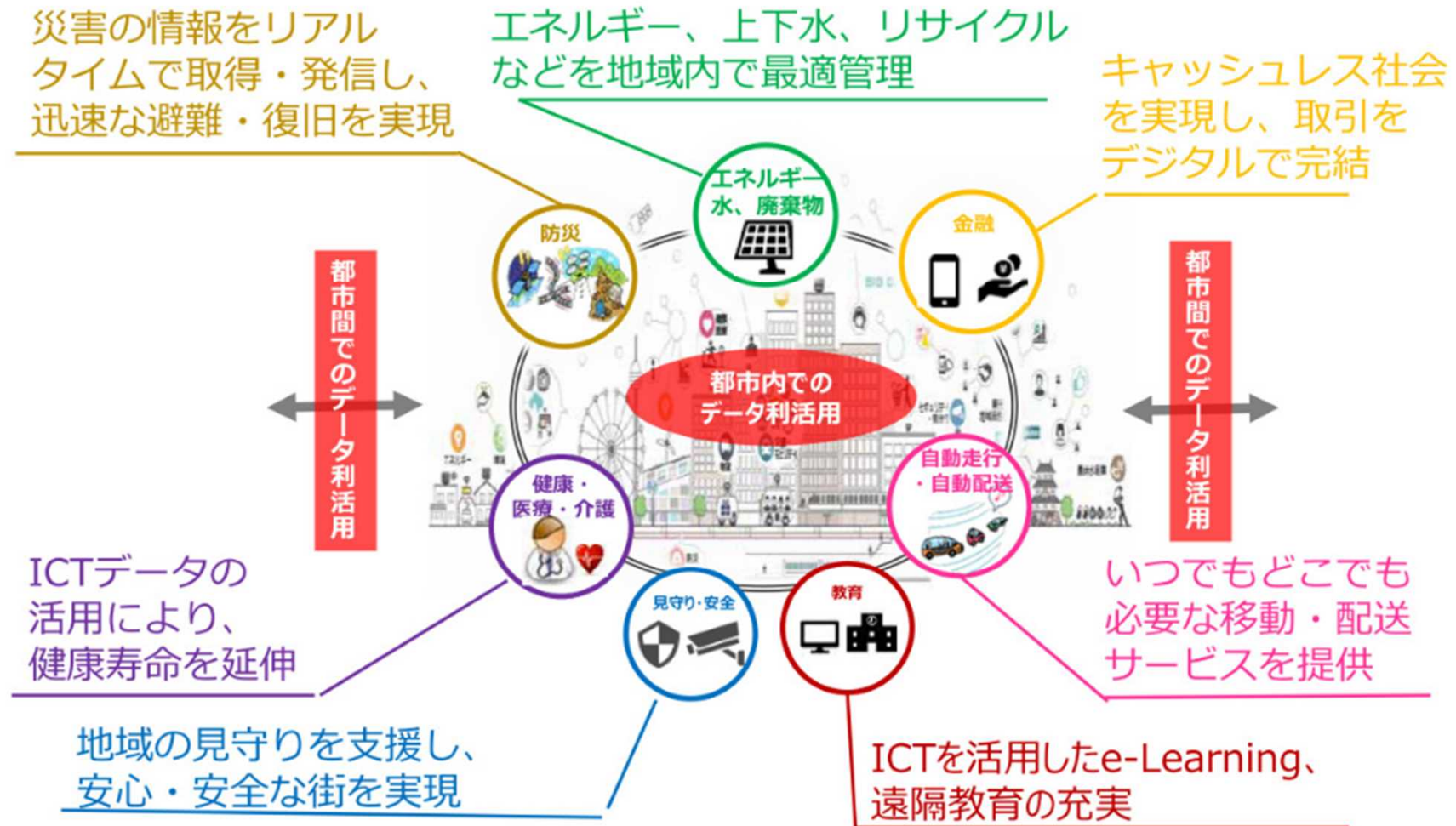
スマートシティとは

スマートシティとは一般的に

「先進的技術の活用により、都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、各種課題の解決を図るとともに、快適性や利便性を含めた新たな価値を創出する取り組み」のことを指します。

産業、環境、交通、健康など、さまざまな場面で、テクノロジーやデータを使って、人々の暮らしを便利にしようとする取り組みが、世界や日本のまちで、次々に生まれてきています。

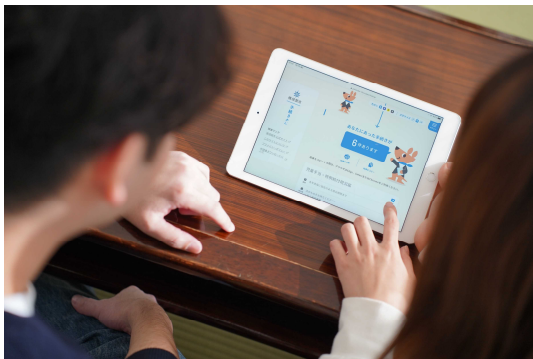
一般的なスマートシティのイメージ図



取り組みの経過

横須賀市では「横須賀市デジタル・ガバメント推進方針」に基づいて、利用者中心の行政サービスの実現のため、**行政DX**を積極的に推進してきています。

また、行政が保有しているデータの公表や、**民間事業者とともに先端技術を用いたサービスの実証**も積み重ねてきています。



書かない窓口



自動配送ロボット



自動運転バス

行政DXの推進（例）

| 事業名 | 関連課等 |
|-----------------------------|-------------------|
| 書かない窓口 | 窓口サービス課、こども給付課 |
| 窓口キャッシュレス決済の活用 | 窓口サービス課、各行政センター |
| GIGAスクールの推進 | 教育研究所 |
| Googleと連携した市内事業者、市役所職員のDX研修 | 都市戦略課、商業振興課 |
| LINEで福祉の困りごとについて相談受付 | 地域福祉課 |
| 介護認定調査におけるタブレット端末の活用 | 介護保険課 |
| 災害監視カメラの設置、YouTubeで公開 | 危機管理課 |
| LINEで粗大ごみ収集申込み | 廃棄物対策課 |
| LINEで道路破損などの市民通報 | 土木計画課、道路維持課、公園管理課 |
| AI相談パートナーの活用 | 地域福祉課 |
| 新型コロナウイルス対応業務のRPA化 | 保健所企画課 |

民間事業者との取り組み（例）

| 事業名 | 関連事業者等 |
|---|---------------------------------------|
| AI運行バス | NTTドコモ、京急グループ |
| Googleのツールを用いた環境教育 | Google |
| 自動配送ロボット | 楽天 |
| IoTデバイスを使い学校教室の温度・湿度・CO2濃度、また電気使用量、施錠等の管理 | ニフコ、三浦学苑 |
| 水中ドローンを活用した魚群探索 | 伊藤忠アビエーション、スペースエンターテインメントラボラトリー、長井町漁協 |
| ドローンを活用したフードデリバリー | エアロネクスト、ACCESS、出前館、吉野家 |
| 自動運転バス | NTTドコモ、京急グループ、群馬大学 |
| Universal MaaS (移動にためらいのある方に快適な移動を提供) | 全日本空輸、京急電鉄、横浜国立大学 |
| AIと電力データを用いた不在配送問題の解消 | JDSC、佐川急便、東京大学、グリッドデータバンク・ラボ |
| ドローンを活用した農薬散布 | 京浜興農 |
| データ連携基盤の構築 | Code for Japan |

スマートシティ推進方針の必要性と位置づけ

近年、時代の変化が激しくなる中で、限られた資源で、さまざまな社会課題や多様化する市民ニーズに対応していくために、これまで以上に、**テクノロジーの積極的な活用が必要**になってきています。

そこで、市役所全体で、意識統一を図り、市民のためにテクノロジーを有効活用できるよう、**スマートシティ推進方針**を策定しました。

スマートシティ推進方針は、市の最上位計画である「**YOKOSUKAビジョン2030**」の考え方、社会認識、期間を継承し、ビジョンを実現するための指針として位置づけます。

YOKOSUKA VISION 2030

01 福祉
誰もが自分らしく幸せに生きられるまち



02 子育て・教育
いくつになっても育てあうまち



03 健康・医療
健康がすぐそばにあるまち



04 コミュニティ
多様な力でつくるまち



05 防災・安全
つながりと備えが安心を生むまち



変化を力に進むまち。横須賀市



06 都市基盤・まちづくり
誰もが暮らしを愛せるまち



07 産業振興
失敗を恐れない挑戦者を応援するまち



08 観光・文化
ワクワクがあふれ出すまち



09 海洋
可能性に満ちた海を活用するまち



10 環境
「自分ごと」の意識が未来を守るまち



考え方、社会認識、期間は継承

横須賀市スマートシティ推進方針

「変化を力に進むまち。横須賀市」という未来像を掲げたYOKOSUKAビジョン2030の10の分野別未来像を実現するために、テクノロジー（変化）の力を最大限活用するための指針

横須賀市のスマートシティの考え方

横須賀市では、スマートシティに取り組むにあたり

「テクノロジーはあくまで道具であり、市民の幸福を実現する取り組みを実装していくこと」を基本理念とします。

そこで、特に市民の生命、安心、幸福に直結する健康分野を皮切りに、スマートシティを推進し、市民一人ひとりが、暮らしの質の向上や、人とのつながりを実感できるまちを目指していきます。

横須賀市のスマートシティの考え方イメージ図

市民の生命、安心、幸福に直結する健康分野を皮切りにする



1

テクノロジーを
道具として活用する

2

市民の幸福、つながりを
最優先する

3

市民の実感が得られる所から
実装していく

さまざまな分野に展開

リーディングプロジェクト

人生100年時代を迎える中で、特に高齢化が進む横須賀市では、
市民一人ひとりがいくつになっても、元気でいきいきと輝けるように、
健康寿命の延伸に取り組むことが大切です。

そのため、健康分野で以下のリーディングプロジェクトを積極的に推進し、
そこから、その他の事業に展開することで、多くの人がスマートシティの
取り組みの効果を実感できるようにしたいと考えています。

【リーディングプロジェクト】

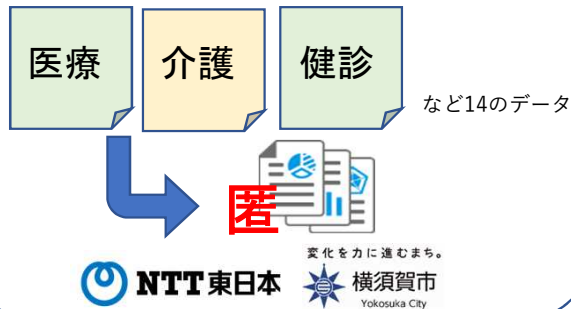
～ヘルスケアデータ連結・分析システムの構築と活用～

産学官連携により、市民の健康データを連結、分析し、より効率的・効果的な
健康支援を行う事業

リーディングプロジェクト ～ヘルスケアデータ連結・分析システムの構築と活用～

1

市が保有する健康関連
データを個人単位で連結、匿名化



2

データをもとに
学術機関での研究・分析



3

ダッシュボードを開発・運用し、
市民の健康状態を可視化



4

保健師等が、より多くの市民に、
よりの確な健康支援サービスの提供



テクノロジーやデータの活用により、
人にしかできない、人だからこそできる、
あたたかみのある直接的な支援を実現

令和4年度

令和5年度

令和6年度～

構築・実証

実装予定（国庫補助等も活用）

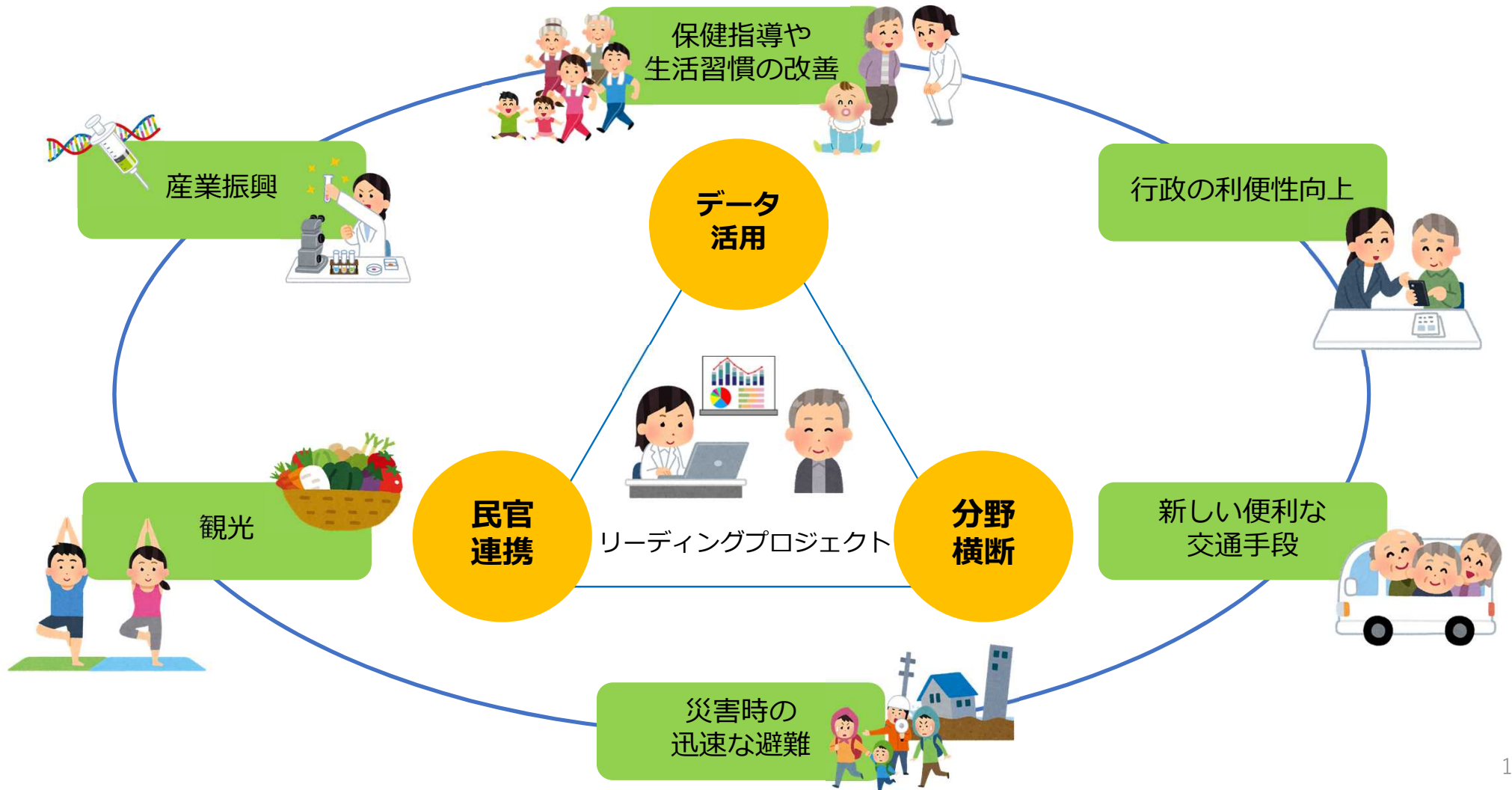
スマートシティの展開

スマートシティは、さまざまな事業を連動して実施することにより、**さらなる相乗効果**が期待できます。

まずは、リーディングプロジェクトである「**ヘルスケアデータ連結・分析システムの構築と活用**」を皮切りに、健康分野から、その他の事業へ展開していきます。

事業展開の際には、**①データ活用 ②民官連携 ③分野横断**を常に意識していきます。

健康分野からのスマートシティ展開イメージ図



スマートシティの将来

横須賀市では本方針を基に、庁内横断的に取り組みを進めるとともに、**民間事業者や学術機関などのそれぞれの強みを生かし、市民の理解の元、個人情報適切に管理し、スマートシティを推進していきます。**

さらに今後は、子育て・教育、福祉など、さまざまな分野に広げるとともに、マイナンバーカードの利活用を進め、それらを有機的に結び付けていきます。

そして、誰もがテクノロジーの恩恵を享受し、「暮らしやすさ」と「つながり」を実感できる**「誰も一人にさせないまち」**の実現を目指します。

参考資料：テクノロジーの活用に関連した令和5年度実施予定事業（例）

| 事業名 | 関連課等 |
|--|---------------------------|
| 認知症高齢者に対する位置情報検索システム導入費などの助成 | 地域福祉課 |
| GIGAスクールのさらなる推進 (ネットワーク環境の強化、ICT支援員の配置) | 教育研究所 |
| VR・ARを活用した防災意識の向上 | 警防課 |
| 119番通報における映像受信システムの導入 | 指令課 |
| メタバースの活用 | 観光課 |
| 人流分析ツールの導入 | 都市戦略課 |
| kintoneを活用した業務の効率化 | デジタル・ガバメント推進室、経済企画課、保健所 等 |
| 位置情報を活用した見守りなど、 教育・保育施設等の機器導入経費の助成 | 障害福祉課、子育て支援課 (令和4年度補正予算) |